


VP Authoring Studio II

Kodak Prosperシリーズ対応機能 / IJPDS To PDFコンバータ

対応機種： Prosper, Versamark, Scitex

【 操作説明書 】

— Version 5.00 —

2022年11月

目次

1. 概要	1
1.1 製品構成	1
1.2 変換性能	2
1.3 動作環境	2
2. RIP設定ツール	3
2.1 基本操作	3
2.2 RIP構成の編集	6
2.3 RIP色の設定	8
2.4 環境設定	10
3. IJPDS To PDFコンバータ	12
3.1 変換実行前の設定	12
3.2 変換実行	14
3.3 「ファイル」メニュー操作	15
3.4 「オプション」メニュー操作「変換動作」	16
3.5 「環境設定」メニュー操作	18
4. フォントリソース編集ツール	19
4.1 基本操作	19
4.2 編集操作	22
5. コマンドライン起動方法	28
6. IJPDS仕様の対応範囲	29

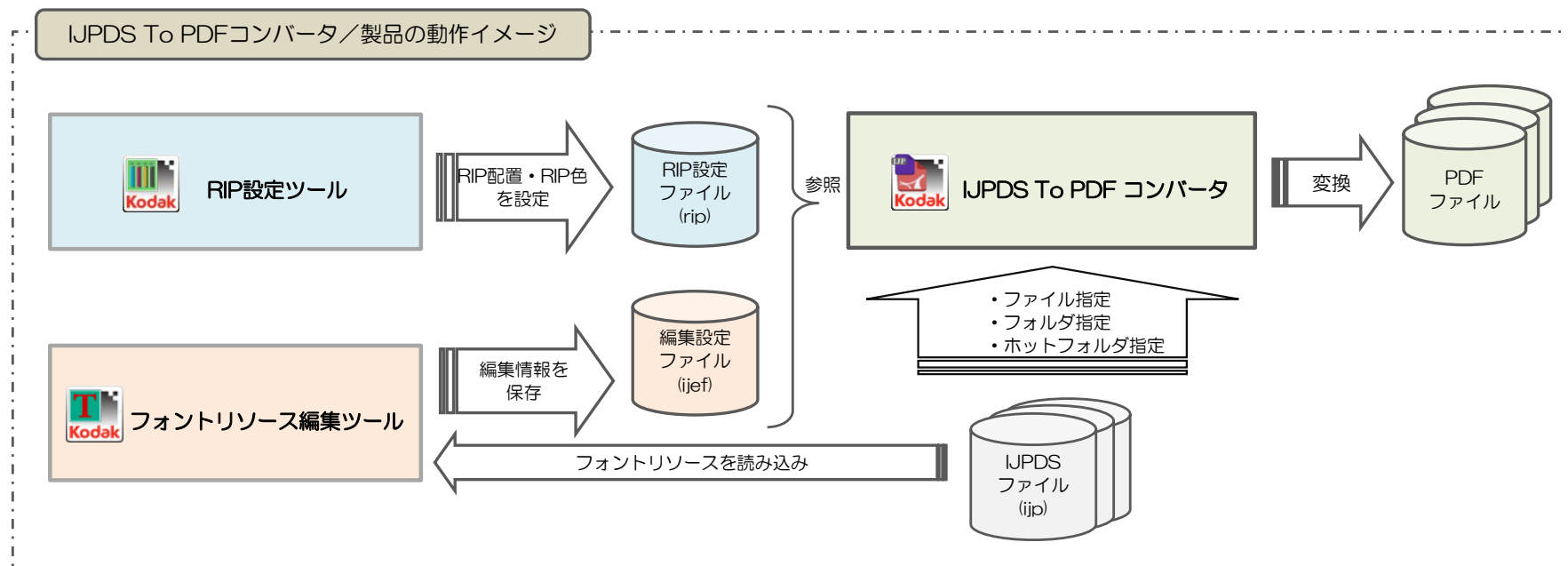
1. 概要

本製品は、Kodak製「Prosper Sシリーズ」のIJPSDファイルをPDFファイルに変換する製品です。実機プリンタと同様にRIPヘッドの配置や色、変換されるPDFページに対するRIP割り当てなどを行い実機プリンタの印字動作をエミュレーションしてPDFへ書き出します。また、既存のフォントリソースの差し替えやバーコードのバー補正、フォント解像度のコンバージョンなども可能です。

1. 1 製品構成

本製品は、RIP領域の設定を行う「RIP設定ツール」とIJPSDファイルをPDFファイルへ変換する「IJPSD To PDF コンバータ」およびIJPSDのフォントリソースを編集できる「フォントリソース編集ツール」の3つの製品で構成されます。

以下に、各製品の動作イメージを示します。



1. 2 変換性能

本製品のIJPDS変換性能は、A4サイズの表裏レイアウトで、宛名、カスタマバーコード、イメージ、バーコード、QRコードが配置されたPDFで「150ページ～200ページ/秒」程度となります。
この性能値は以下の機器スペックにて測定した結果です。

機器スペック	
プロセッサ	Intel Core i7 CPU 2600 (3.4GHz)
実装メモリ	16GByte
OS	Windows10 Home

※性能値は、オブジェクトの数により変化します。

1. 3 動作環境

本製品の動作環境は以下のようになります。

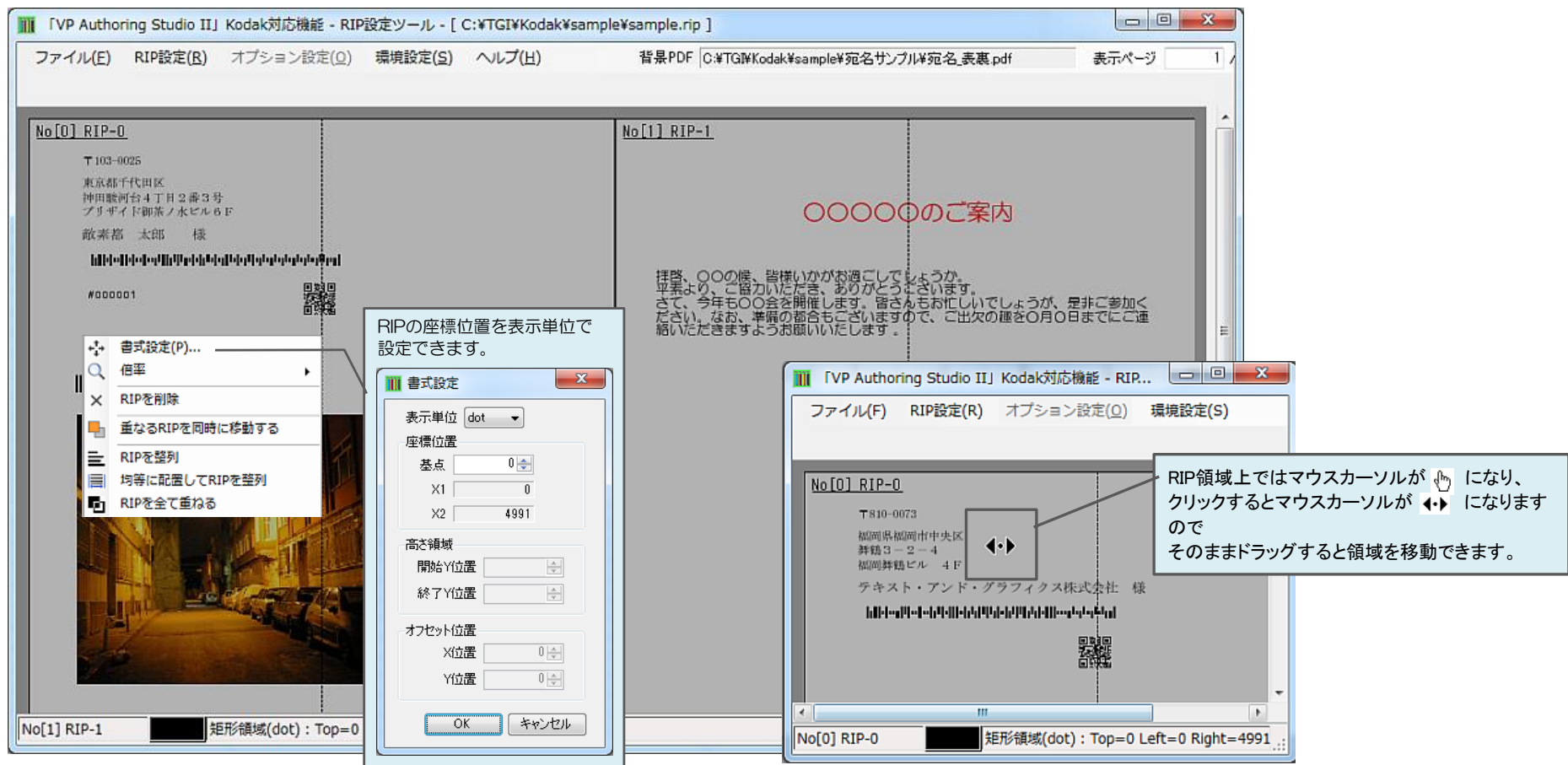
動作環境	
プロセッサ	マルチコアプロセッサ(3GHz以上)を推奨
実装メモリ	16GB以上を推奨
OS	Windows10 Home/Pro、Windows11 Home/Pro (64bit版)
.NET Framework	.NET4.0がインストールされていること
HDD	50GB以上の空き容量のSSDを推奨
モニタ	WXGA(1280×768)以上の解像度が必要
表示ソフト	Adobe Acrobat/Reader
その他	USBポート ※ハードウェアキー装着用

2. RIP設定ツール

「RIP設定ツール」の機能について説明します。このツールは、PDF変換に使用するRIP領域を設定するためのツールです。各RIP領域をドラッグ&ドロップ操作で設定できます。また、個々のRIP領域に対してPDFへ変換する色を指定できます。

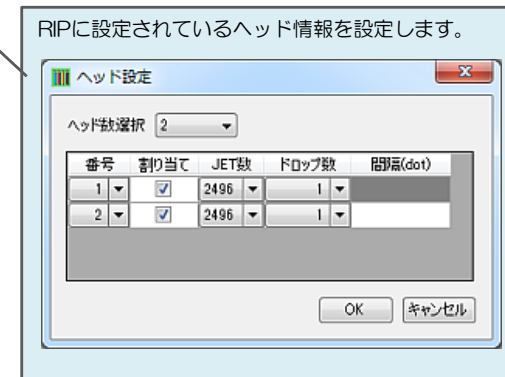
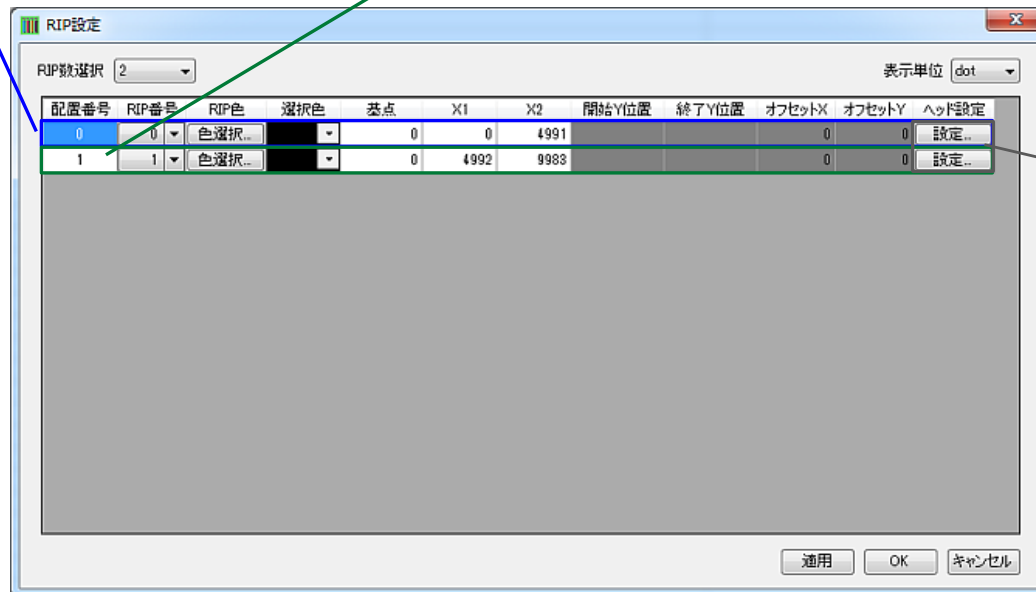
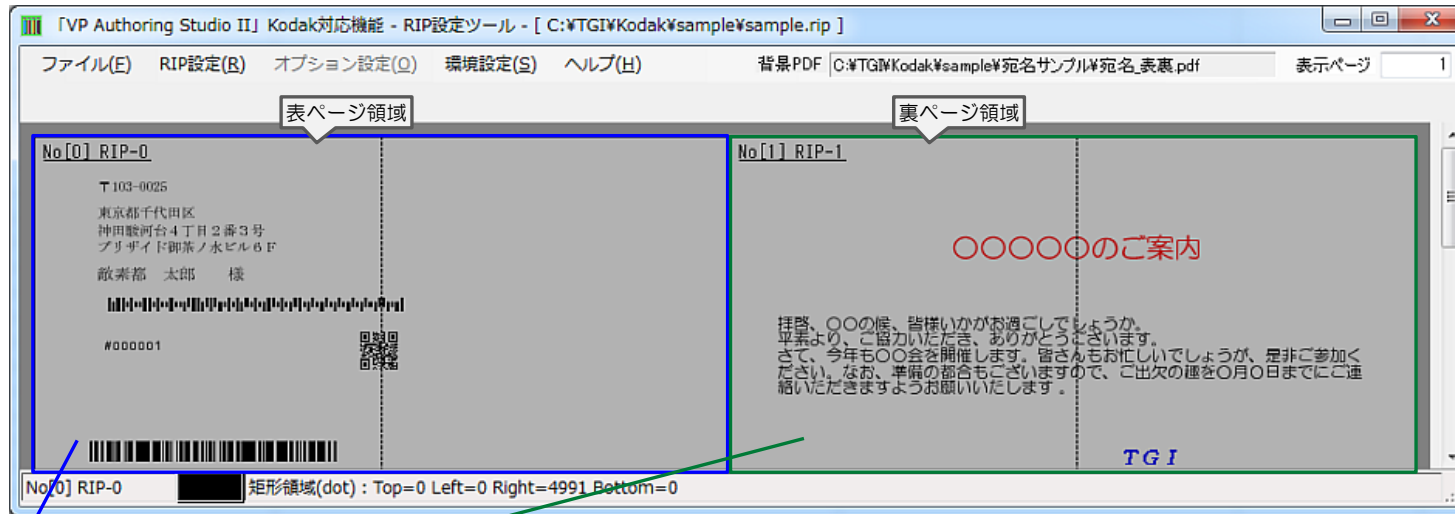
2. 1 基本操作

「RIP設定(R)」 - 「用紙設定(P)...」メニューより用紙サイズを設定後、ページに対してドラッグ&ドロップ操作で各RIP領域を設定することができます。背景に使用する画像ファイルが存在する場合は「RIP設定(R)」 - 「背景に使用する画像ファイルを選択(R)...」メニューより背景画像を選択し、背景画像に対して設定することも可能です。また、RIP領域上で右クリックメニュー「書式設定(P)...」を押下し、書式設定画面から座標位置を設定することもできます。



マルチページのRIP構成

変換するIJPDSのページを複数のRIP領域に設定し、マルチページ構成のPDFを作成することができます。表裏が左右に並んだページ構成のIJPDSの場合、2つのRIPを指定し、左側（表ページ）、右側（裏ページ）の位置にそれぞれ設定します。



<右クリックメニュー>

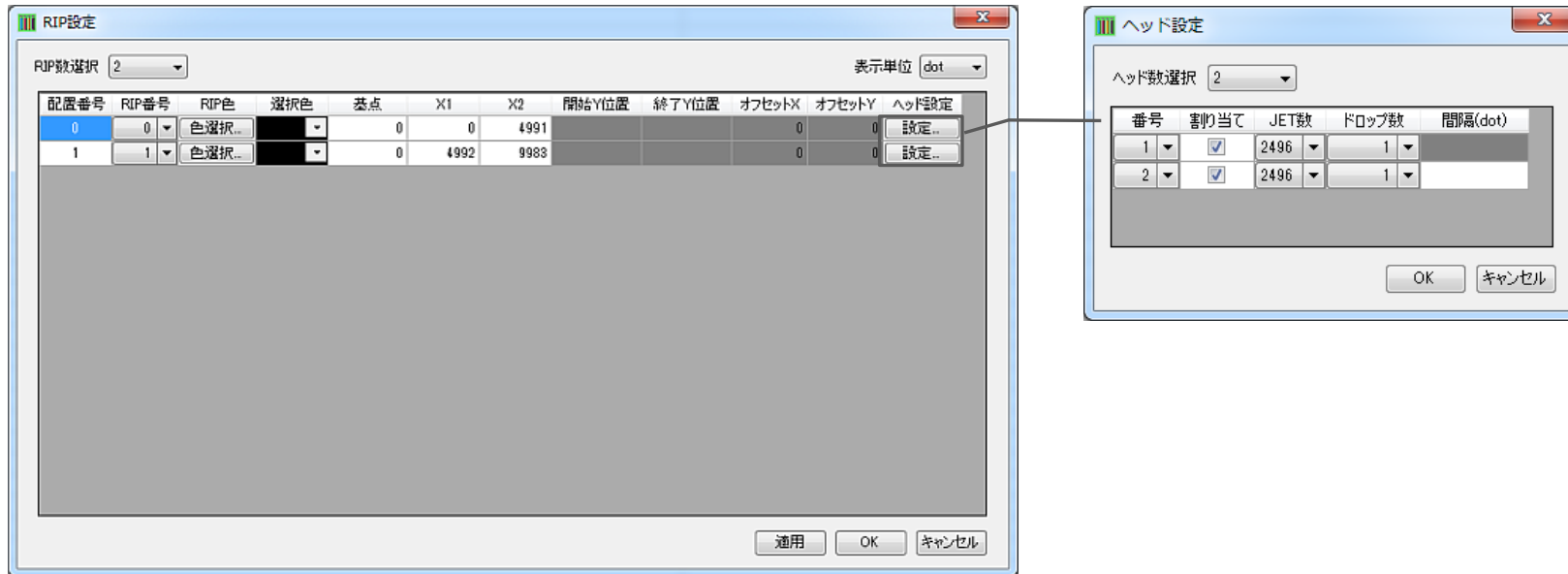
設定項目	設定内容
書式設定	RIPの座標位置、高さ領域、オフセット位置を設定します。書式設定画面で対象RIPの座標を設定できます。 ※この項目はマウスカースルがRIP領域にある場合に選択可能です。
倍率	表示する倍率を[5% ~ 100%]の範囲で選択します。
RIPを削除	対象のRIPを削除します。※この項目はマウスカースルがRIP領域にある場合に選択可能です。
重なるRIPを同時に移動する	複数のRIPが設定され重なるRIPを同時に移動する場合に選択します。 選択されている場合、RIPが重なった部分をドラッグ&ドロップすると同時に移動できます。
RIPを整列	全てのRIPを基点0の状態を整列します。
均等に配置してRIPを整列	複数のRIPが設定されている場合に基点となるRIP番号を指定し、指定したRIP番号の基点を他のRIPに反映されます。
RIPを全て重ねる	複数のRIPが設定されている場合にRIP番号0の位置にすべてのRIPを重ねます。

<書式設定>

設定項目	設定内容	
表示単位	表示単位を[mm], [inch], [dot]から選択します。	
座標位置	基点	RIPの基点を設定します。基点を設定するとX位置が自動で更新されます。
	X1	RIPの開始X位置が表示されます。
	X2	RIPの終了X位置が表示されます。

2. 2 RIP構成の編集

「RIP設定(R)」 - 「RIP構成の編集(E)...」メニューよりRIP構成を編集することができます。RIP数を選択すると環境設定に設定された [プリントヘッド/解像度] の値からX位置が表示され、[基点] を変更すると自動で更新されます。また、ヘッド設定からステッチング構成を設定することもできます。



<RIP設定>

設定項目	設定内容
RIP数	RIP数を選択します。
配置番号	配置番号が表示されます。 ※PDFへの描画時はRIP番号順ではなくこの配置番号順に描画されます。
RIP番号	割り当てるRIP番号を選択します。
RIP色	RIP色を設定します。PDFに変換する色を選択します。
選択色	RIP色で設定した色が表示されます。
基点	RIPの基点を設定します。基点を設定するとX位置が自動で更新されます。
X1, X2	RIPの開始X位置・終了X位置が表示されます。
ヘッド設定	ヘッドの設定を行います。

<ヘッド設定>

設定項目	設定内容
ヘッド数	ヘッド数を選択します。
番号	割り当てるヘッド番号を設定します。
割り当て	RIPにヘッド個別の割り当てを行う場合に、チェックONにします。(デフォルトは全てチェックONです)
JET数	JET数を選択または入力します。 環境設定の機種に設定された内容に合わせて設定します。 「ProsperSシリーズ」⇒「2496」 「4インチヘッド」⇒「1024」 「9インチヘッド」⇒「2688」 任意の値を入力することを可能です。
ドロップ数	ドロップ数を選択または入力します。 特に指定が無い場合は1を設定します。
間隔(dot)	ヘッド間の間隔を指定します。RIP設定画面で選択している表示単位で設定します。マイナス値の設定も可能で隣接するヘッドの先頭位置まで指定できます。 機種が[ProsperSシリーズ(600×600dpi)]で表示単位が[dot]の場合、[-2496～120000]の範囲で指定します。

2. 3 RIP色の設定

PDFに変換する色を設定します。各RIP領域に異なる色を設定すると複数の色が混在したPDFを作成することができます。「RIP設定(R)」 - 「RIP構成の編集(E)…」メニューより[RIP設定]画面を開き、設定するRIPの[色選択...]ボタンをクリックして[カラー選択]画面を開き直接カラーコードを指定します。IJ/PDSの各RIP領域のデータが指定された色でPDFに変換されます。

以下は表・裏ページが左右に並んだページ構成で4つのRIP領域が存在するIJ/PDSファイルをPDFに変換するための設定例です。表ページにはRIP色 [黒] が設定された1つのRIPを設定、裏ページには [黒]・[青]・[赤] のRIP色をそれぞれ設定した3つのRIPを重ねた位置に設定します。また、各RIPはステッチング構成にしています。

RIP設定

RIP数選択: 4 表示単位: dot

配置番号	RIP番号	RIP色	選択色	基点	X1	X2	開始Y位置	終了Y位置	オフセットX	オフセットY	ヘッド設定
0	0	色選択...	黒	0	0	4991			0	0	設定...
1	1	色選択...	黒	0	4992	9993			0	0	設定...
2	2	色選択...	青	-4992	4992	9993			0	0	設定...
3	3	色選択...	赤	-4992	4992	9993			0	0	設定...

ヘッド設定

ヘッド数選択: 2

番号	割り当て	JET数	ドロップ数	間隔(dot)
1	<input checked="" type="checkbox"/>	2496	1	
2	<input checked="" type="checkbox"/>	2496	1	

色の選択はカラーコードを選択して設定します。環境設定のカラーモードが [RGB] の場合はRGBのカラーコードを指定、[CMYK] の場合はCMYKのカラーコードを指定します。

カラー選択

RGBカラー

R: 0 G: 0 B: 0

作成される色: 黒

カラーコード # 000000

CMYKカラー

C: 0% M: 0% Y: 0% K: 0%

カラーコード #

カラー選択

RGBカラー

R: 0 G: 0 B: 255

作成される色: 青

カラーコード # 0000FF

CMYKカラー

C: 0% M: 0% Y: 0% K: 0%

カラーコード #

カラー選択

RGBカラー

R: 255 G: 0 B: 0

作成される色: 赤

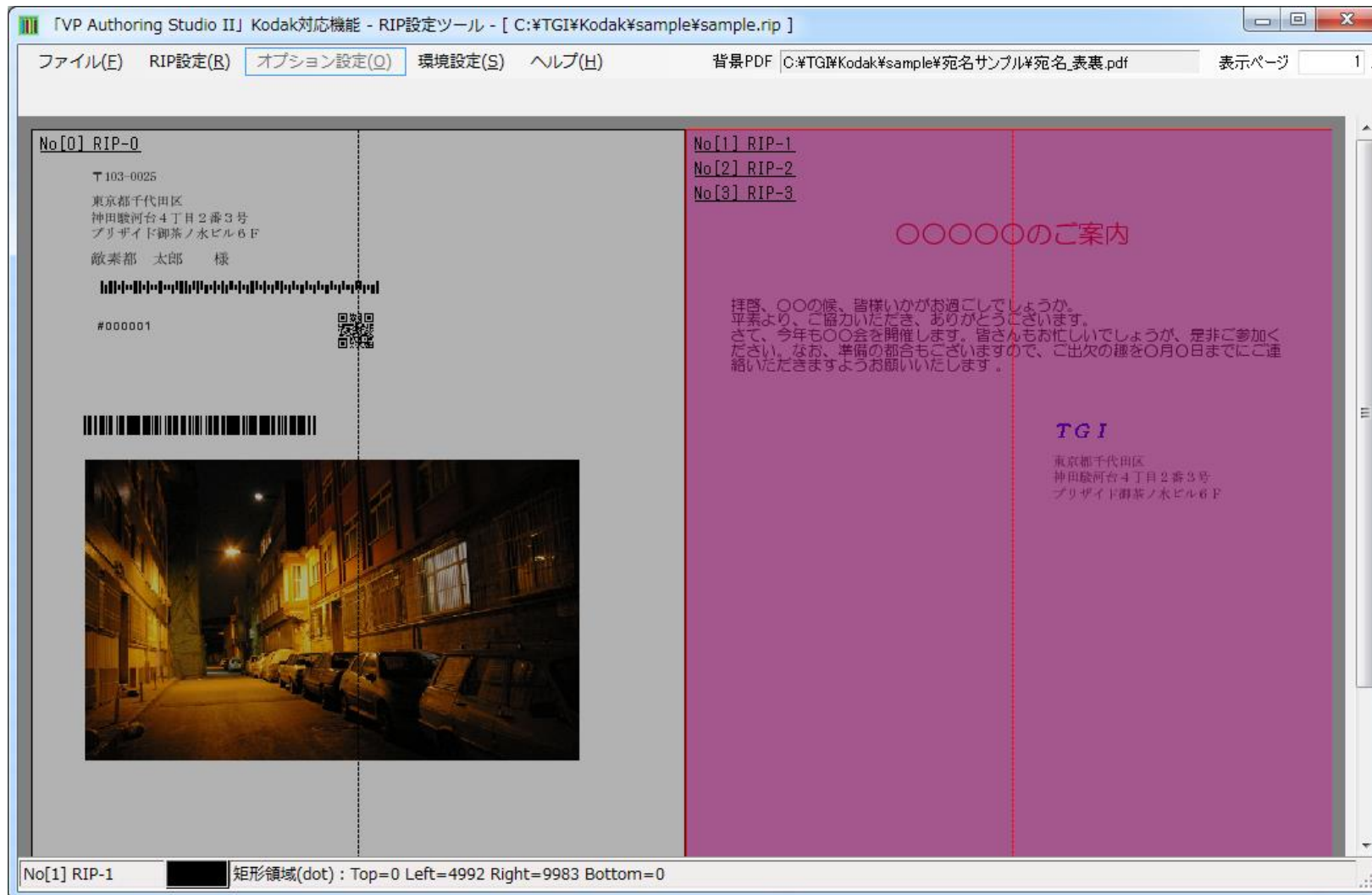
カラーコード # FF0000

CMYKカラー

C: 0% M: 0% Y: 0% K: 0%

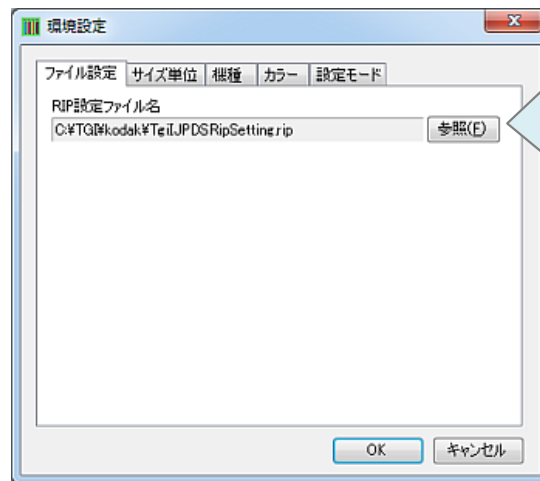
カラーコード #

メイン画面のRIP領域の背景は設定されたRIP色で表示されます。3つのRIPを重ねて配置した場合、左上に3つのRIP番号が表示されそれぞれのRIPに設定された色が重なった色で表示されます。また、ヘッドがステッチング構成の場合はヘッド間が点線で表示されます。



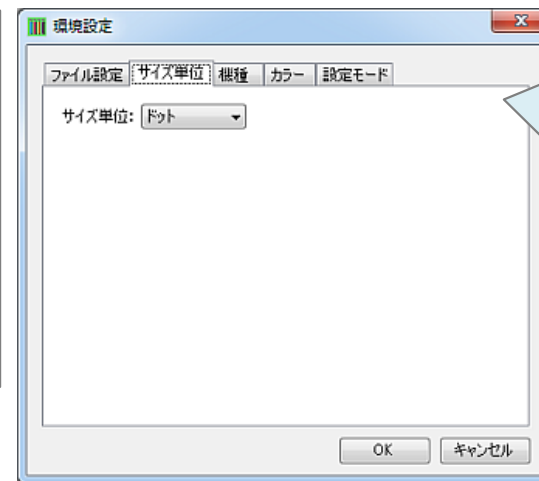
2. 4 環境設定

RIP設定ツール全般の環境を設定します。



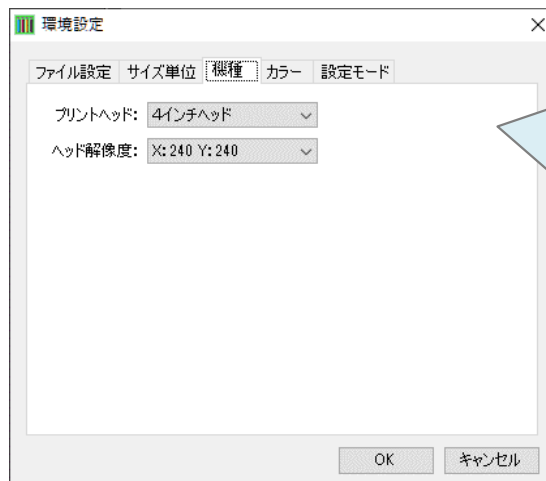
【ファイル設定】

RIP設定ツール起動時に初期表示として読み込むRIP設定ファイルを設定します。



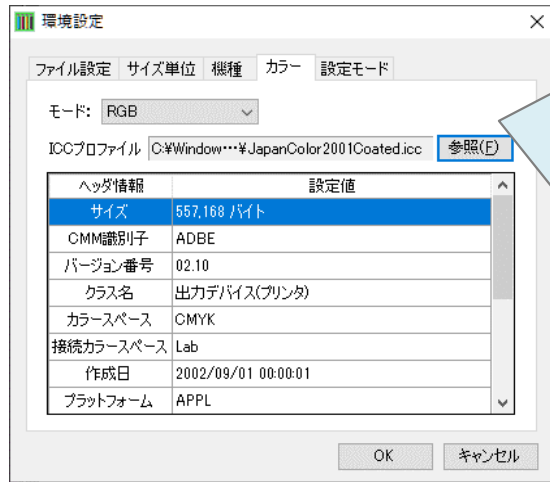
【サイズ単位】

領域を指定する単位を設定します。
[ドット / ミリメートル / インチ]の設定が可能です。



【機種】

使用するプリンタのプリントヘッドとヘッド解像度を設定します。
●プリントヘッドは以下より選択できます。
[4インチヘッド] ※Scitex用
[9インチヘッド] ※Versamark用
[Prosper S10/S5]
[Prosper S20]
[Prosper S30]

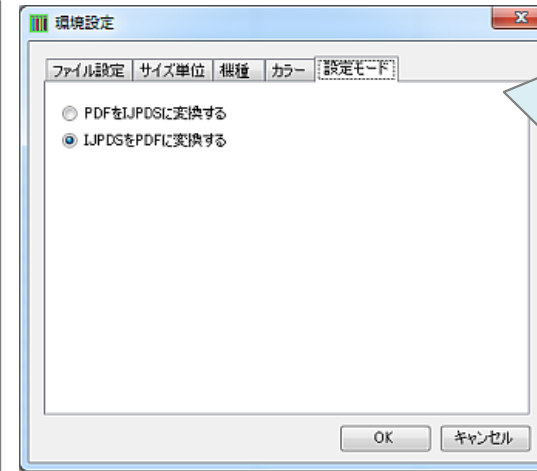


【カラー】

カラーモードを設定します。
※推奨設定は「RGB」モードです

[RGB / CMYK] の設定が可能です

※RIP色設定ではICCプロファイルを経由した色変換を行いますので、何れのモードの場合もICCプロファイルを設定してください。



【設定モード】

RIP情報を設定する変換モードを設定します。

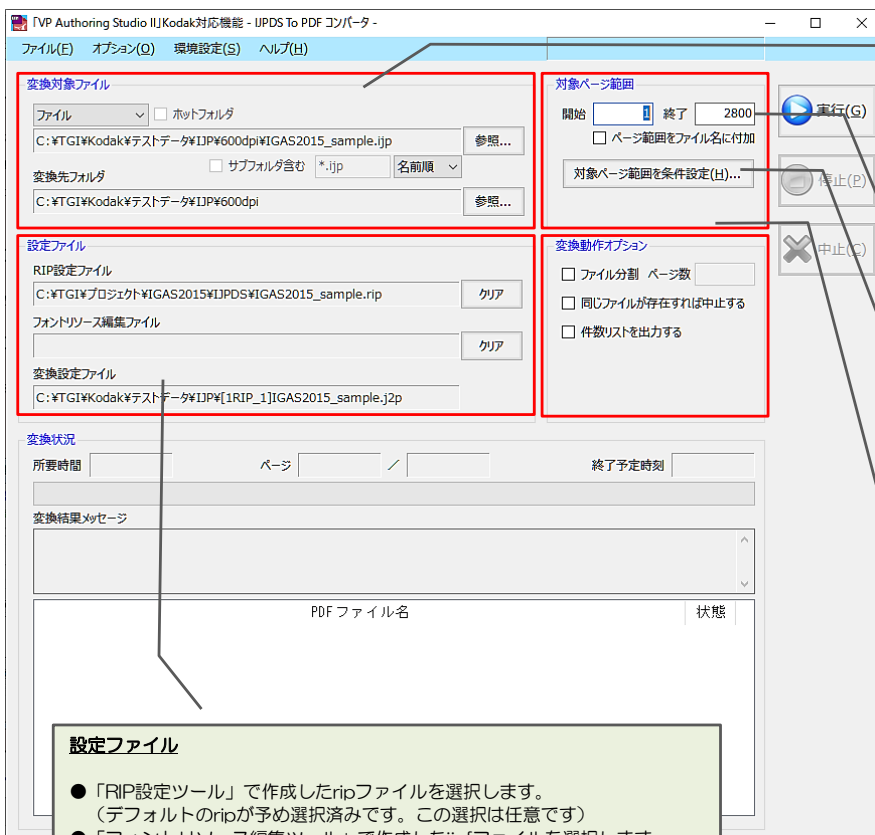
[PDF To IJPDSコンバータ], [IJPDS To PDFコンバータ]の両方がインストールされている場合のみ変更可能です。

3. 1 JPDS To PDFコンバータ

「JPDS To PDFコンバータ」の機能について説明します。この機能は「RIP設定ツール」で作成されたripファイルおよび「フォントリソース編集ツール」で作成されたijefファイルを参照してJPDSファイルをPDFファイルに変換するコンバータです。RIP設定ツールで設定された各RIP領域の色およびPDFページに割り当てられたRIP配置をもとにPDFへの変換を行います。

3. 1 変換実行前の設定

PDF変換を行う前に操作する内容を説明します。ここで設定される内容は変換設定ファイル(j2p)に保存が出来ます。次回変換時は、このj2pファイルを開くことで、再設定をすることなく変換が実行できます。



変換対象ファイル

- 変換対象となるJPデータファイルを選択します。選択は単一ファイル、またはフォルダ一括で指定できます。
- フォルダ指定の場合はホットフォルダの指定、およびサブフォルダ検索有無、ワイルドカード指定が可能です。ホットフォルダ指定で動作中の場合は右上に「ホットフォルダを監視中...」のメッセージが定期的に表示されます。**ホットフォルダ動作で処理されたJPデータファイルは対象フォルダの配下に「HotFolderMovedFiles」フォルダを作成しこのフォルダへ移動します。**
- 変換先フォルダはJPデータファイルのフォルダが表示されますが、任意のフォルダに変更ができます。

対象ページ範囲

- 変換対象とするページ範囲を指定します。未指定の場合は全ページが対象となります。
- 指定したページ範囲をファイル名に付加することができます。

対象ページ範囲を条件設定

変換対象とするページ範囲の条件指定が可能です。条件を設定して対象ページを抽出、ページ内に含まれるバイナリデータを検索して判定して抽出することができます。

※詳細は次ページを参照してください

変換動作オプション

- ファイル分割**
PDF変換時に、PDFファイルを分割する設定が可能です。分割するページ数を指定します。分割されたPDFファイル名には枝番が付加されます。
- 同じファイルが存在すれば中止する**
変換対象となる同じ名前のPDFが存在する場合は変換を停止します。この設定がOFFの場合には、同名のPDFファイルは上書きされます。
- 件数リストを出力する**
変換先フォルダにPDFファイル毎の変換ページ数リストがCSV形式で出力されます。

設定ファイル

- 「RIP設定ツール」で作成したripファイルを選択します。
(デフォルトのripが予め選択済みです。この選択は任意です)
- 「フォントリソース編集ツール」で作成したijefファイルを選択します。
(リソース編集を行わない場合は選択不要です)
- 変換設定ファイル(j2p)が開かれている場合には、ここにファイル名が表示されます。

変換動作オプション

PDFファイルを指定したページ数で分割して作成することができます。

対象ページ範囲を条件設定

●繰り返し条件を設定

奇数/偶数ページを抽出する場合、特定のページ番号を指定する場合に設定します。
抽出ページの指定には、カンマ区切りによるページ番号の指定、ハイフン区切りによるページ番号の範囲指定が可能です。

[例]

10ページ単位に1,3-5,7,8ページ目のみ
→10ページごとに1,3,4,5,7,8の計6ページが抽出対象となります。

●ページ内のバイナリデータを検索して判定

1括りが可変ページ数のマルチページで宛名ページのみ抽出したい場合、郵便番号の上3桁が指定した値のページを抽出したい場合、特定の名前を含むページのみ抽出したい場合に使用します。

マッチング対象のページ内テキスト範囲はフィールドとして認識される範囲が1区切りとなります。
(住所など複数に印字されている場合は別フィールドとして認識されます)

※この抽出方法では、ページ内のテキスト情報をマッチング検索しますので、条件の設定によっては変換性能が低下する場合があります。

<マッチング方法>

完全：検索データと完全一致するか判定します
前方：検索データが前方に含まれるか判定します
後方：検索データが後方に含まれるか判定します
任意：検索データが含まれるか判定します

<複合条件>

全て+含む：指定された検索データを全て含む場合に対象となります
全て+含まない：指定された検索データを全て含まない場合に対象となります
何れか+含む：指定された検索データを何れか含む場合に対象となります
何れか+含まない：指定された検索データを何れか含まない場合に対象となります

繰り返し条件を指定

変換範囲を条件設定
×

条件を設定して対象ページを抽出

繰り返し条件を指定

ページ単位に
 ページ目のみ

ページ内の文字コードを検索 ※16進表記で入力(例>31 32 33 34)

マッチング方法
 完全 前方 後方 含む

上記文字コードを 全て 何れか 含む 含まない

ページ内のテキストを検索して判定

変換範囲を条件設定
×

条件を設定して対象ページを抽出

繰り返し条件を指定

ページ単位に
 ページ目のみ

ページ内の文字コードを検索 ※16進表記で入力(例>31 32 33 34)

マッチング方法
 完全 前方 後方 含む

[前方] 30 30 30 35

[前方] 30 30 30 36

[前方] 30 30 30 37

上記文字コードを 全て 何れか 含む 含まない

3. 2 変換実行

PDF変換の実行操作を説明します。変換実行は「実行」ボタン押下のみの操作です。変換実行中は、所要時間・終了予定時刻、および進捗ステータスが表示されます。また、何らかのエラーが発生した場合には変換結果メッセージに詳細内容が表示されます。

変換動作指示

【実行】
PDF変換を実行します

【停止】
PDF変換を停止します。再度押下することで変換を再開します。

【中止】
PDF変換を中止します。
実行中の場合は、一旦停止して中止を行います。

変換状況

- PDF変換中は、所要時間、進捗状況（変換ページ数）、および終了予定時刻（目安）が表示されます

変換結果メッセージ

- PDF変換が終了時には、変換結果のメッセージが表示されます。エラーが発生した場合には、詳細のエラー内容が表示されます。

変換結果のPDFファイル一覧

- 変換されたPDFファイル名の一覧が表示されます。ダブルクリックで変換されたPDFファイルを開くことができます（この操作にはAcrobat Readerがインストールされている必要があります）
- エラーが発生したPDFの場合は[×]アイコンが表示されます。ダブルクリックでエラー詳細を確認することができます。

3. 3 「ファイル」メニュー操作

(1) 「RIP設定を切り替え」

PDF変換時に参照されるripファイルの切り替えを行います。特に切り替えを行わない場合は「環境設定」メニューで設定されているファイルが参照されます。
ripファイルは「RIP設定ツール」で作成される設定ファイルです。

(2) 「変換設定を開く」

予め作成しておいたj2pファイルを開きます。j2pファイルはPDF変換時の画面設定内容が保存されたファイルです。

(3) 「変換設定を保存」

現在設定されている内容でj2pファイルを作成します。

(4) 「変換設定を閉じる」

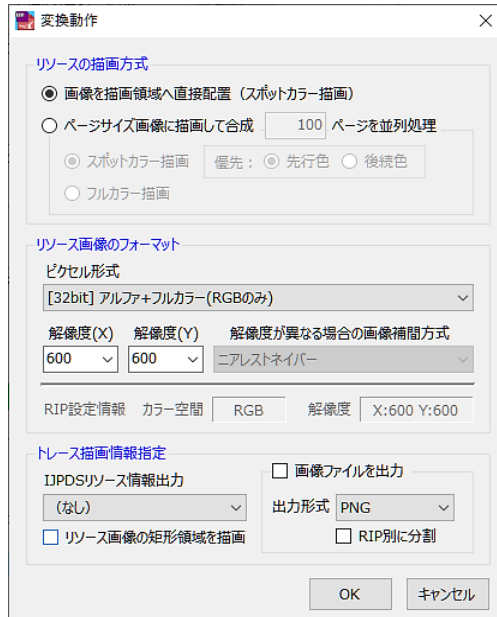
現在開かれている変換設定ファイルを閉じます。画面表示は初期状態に戻ります。

(5) 「終了」

PDFコンバータを終了します。

3. 4 「オプション」メニュー操作 「変換動作」

PDF作成時の変換動作の機能について説明します。「オプション(O)」 - 「変換動作(C)...」メニューから「変換動作」設定画面を表示します。重なりあう画像の合成設定や画像描画時の画像フォーマット、解像度が異なる場合のイメージの補間方法の設定ができます。また、リソース、画像ファイルの出力設定が可能です。

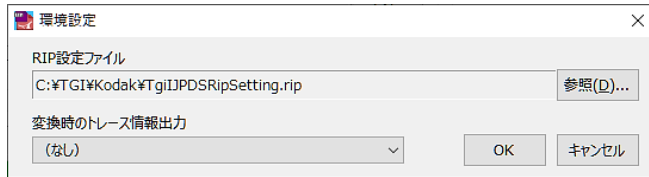


設定項目		設定内容
リソースの描画方式	画像を描画領域へ直接配置	リソース画像を各々の位置に個別に描画します。 <重なり合う画像がない場合> ⇒ モノクロの場合は画像フォーマット: Indexed (RGB/CMYK) を選択してください ⇒ カラーの場合は 画像フォーマット: [24bit] フルカラー (RGB/CMYK) を選択してください <重なりあう画像がある場合> ⇒ 画像フォーマット: [32bit] アルファ+フルカラー (RGBのみ) を選択してください
	ページサイズ画像に描画して合成 (※複数ページを一括描画します)	全てのリソース画像を1つの描画キャンパスに合成して描画します。 ⇒ 画像フォーマット: Indexed (RGB/CMYK) 固定となります ※CMYK合成の場合はこちらを選択してください。
	[] ページを並列処理	並列で処理するページ数は [1 ~1000] の範囲で設定できます。
	スポットカラー描画	優先: 色が重なる場合の優先を選択します 先行色=最初の色を使用 後続色=最後の色を使用
	フルカラー描画	フルカラーで色を掛け合わせて描画します

設定項目		設定内容
リソース画像の フォーマット	ピクセル形式	画像フォーマットを以下から設定します。 ・ [32bit] アルファ+フルカラー (RGBのみ) ・ [24bit] フルカラー (RGB/CMYK) ・ Indexed (RGB/CMYK) ※描画モードの設定により選択できるフォーマットが異なります。
	解像度(X)・解像度(Y)	変換するPDFの画像解像度を指定します。 デフォルトでは選択されているIJPDSの解像度が表示されます。 ※「フォントリソース編集」を指定した場合、この解像度はjefファイルに設定されている解像度と一致させておく必要があります。
	解像度が異なる場合の画像補間方式	変換対象のIJPDSと変換先のPDFで異なる解像度を指定した場合のイメージ補間方法を以下から設定します。 ・ ニアレストネイバー ・ バイリニア (標準) ・ バイリニア (高品質) ・ バイキュービック (標準) ・ バイキュービック (高品質) ※「フォントリソース編集」を指定した場合、この設定は無効となります。
	カラー空間	RIP設定ファイルに保存されているカラーが表示されます。
	解像度	RIP設定ファイルに保存されている解像度が表示されます。
トレース情報指定	IJPDSリソース情報出力	IJPDSリソース情報がログファイルに出力されます。出力レベルを以下より選択します。 (なし) : 出力しません。 ヘッダ情報のみ : IJPDSファイルへ出力するレコード情報を出したログファイル(*.log)レコード種別の集計ファイル(*.sum)を出力します。 +テキストイメージ : テキストイメージのリソースファイル(*.fnt)を出力します。 +BMPファイル : リソース情報となるBMPファイルを出力します。 +マルチTIFFファイル : リソース情報となるマルチTIFFファイルを出力します。
	リソース画像の矩形領域を描画	個々のリソースの矩形領域枠を描画します。
	画像ファイルを出力	変換内容の画像ファイルを出力する場合、チェックONにして出力形式を選択します。
	出力形式	出力する画像ファイルの形式を「PNG」、「TIFF」、「JPEG」、「BMP」から選択します。
	RIP別に分割	出力する画像ファイルをRIP別に分割する場合にチェックONにします。

3. 5 「環境設定」メニュー操作

デフォルトのRIP設定ファイル、フォント定義ファイルを設定します。



設定項目	設定内容
RIP設定ファイル	デフォルトのRIP設定ファイルを設定します。メイン画面のRIP設定ファイルが表示されていない場合はこのファイルが使用されます。
変換時のトレース情報出力	<p>PDF変換時のトレース情報がログファイルに出力されます。出力レベルを以下より選択します。</p> <p>(なし) : 出力しません。 レコード情報のみ : PDFファイルへ出力するレコード情報を出力したログファイル(*.log)、レコード種別の集計ファイル(*.sum)を出力します。 +パラメータ値を出力 : ログファイルにレコードの設定値情報を追加して出力します。 +ダンプ情報を出力 : ログファイルにバイナリのダンプデータを追加して出力します。 +全てのリソースを出力 : リソース情報として全てのリソースをログファイルに出力します。</p> <p>※トレース情報出力は処理時間を要します。必要最小限の情報を出力するように設定してください。</p>

4. フォントリソース編集ツール

「フォントリソース編集ツール」の機能について説明します。この機能はJPDSファイルに格納されているフォントリソースを編集するための機能です。低解像度のフォントイメージを高解像度へ変更する場合やバーコードのバードット数を補正する場合などに使用できます。この機能で作成されたijefファイルをPDF変換時に指定することにより既存のJPリソースではなく編集されたリソースを使用してPDFへ変換することが出来ます。

4. 1 基本操作

この機能の基本的な操作方法について説明します。このツールでは編集対象のJPDSファイル（またはJPDS仕様で作成されたリソースのバイナリファイル）を選択することにより編集結果をijefファイルへ保存することが出来ます。またijefファイルを読み込んで再度編集することも可能です。

<JPファイルをロードした画面イメージ>

表示・設定内容	
①	メニュー操作
②	JPファイル選択・読み込み
③	ジョブ情報表示
④	RIP情報一覧表示・選択
⑤	フォント登録一覧表示・選択
⑥	フォント情報表示
⑦	登録文字一覧表示・選択
⑧	登録イメージ表示
⑨	編集イメージ表示
⑩	編集方法選択
⑪	解像度・画像形式指定
⑫	オーバーレイ背景画像指定
⑬	編集・取消・CSV出力操作

① メニュー操作

- 「フォントリソース編集ファイルを開く」
編集済みのijefファイルを開きます。
- 「上書き保存」
現在編集中的数据を開かれているijefファイルへ保存します。
- 「名前を付けて保存」
現在編集中的数据を別名のijefファイルへ保存します。
- 「閉じる」
現在編集中のijefファイルを閉じます。
- 「終了」
「フォントリソース編集ツール」を終了します。

② IJPDSファイル選択・読み込み

[参照] ボタンで編集対象のIJPDSファイルをロードします。ロード中は処理中のブロック数(1ブロックは4096byte)が表示されます。リソースブロックのみロードされますのでドキュメントブロックを含むIJPDSを指定した場合は総ブロック数と終了ブロック数が異なる表示になります。

③ ジョブ情報表示






[JC2] レコードに格納されているジョブ情報が表示されます。

④ RIP情報一覧表示・選択

各RIPの情報および登録されているフォント数が一覧表示されます。左側のチェックボックスをクリックすると下の一覧にフォント情報が表示されます。複数のRIPをチェックした場合はチェックされた全てのRIPのフォント情報が纏めて表示されます。

⑤ フォント登録一覧表示・選択

選択されたRIPに登録されているフォント、フォントに含まれる文字数が表示されます。この一覧は右クリックメニューで以下の操作が可能です。

 並び替え [RIP番号] (R)	並び替え [RIP番号]	リストをRIP番号→フォント番号順に並び変えます
 並び替え [フォント名] (F)	並び替え [フォント名]	リストをフォント名順に並び変えます
 並び替え [コード体系] (C)	並び替え [コード体系]	リストをコード体系順に並び変えます
 選択したフォントを無効に編集する (D)	選択したフォントを無効に編集する	この操作は複数の選択されたフォントに対して実行できます
 選択したフォントの編集を取り消す (Z)	選択したフォントの編集を取り消す	この操作は複数の選択されたフォントに対して実行できます

⑥ フォント情報表示

選択されたフォントの詳細情報が表示されます。

⑦ 登録文字一覧表示・選択

選択されたフォントに登録されている文字の一覧が表示されます。また編集済みのフォントの場合は赤字タイトルの [編集] [文字] [幅] [高さ] の列に編集結果の文字情報が表示されます。この一覧は右クリックメニューで以下の操作が可能です。この一覧でチェックされた文字が編集操作の対象となります。

<input type="checkbox"/>	全てをチェック(A)
<input type="checkbox"/>	全てをチェックを解除(C)
<input checked="" type="checkbox"/>	選択範囲をチェック(S)
<input type="checkbox"/>	選択範囲のチェックを解除(D)
<input checked="" type="checkbox"/>	編集された文字を全てチェック(T)
<input checked="" type="checkbox"/>	エラーになった文字を全てチェック(E)
全ての行を選択状態にする Ctrl+A	

全てをチェック	全ての文字のチェックボックスをONにします
全てをチェックを解除	全ての文字のチェックボックスをOFFにします
選択範囲をチェック	選択されている範囲行の文字のチェックボックスをONにします
選択範囲のチェックを解除	選択されている範囲行の文字のチェックボックスをOFFにします
編集された文字を全てチェック	編集されている文字だけを全てチェックONにします
エラーになった文字を全てチェック	編集後にエラーアイコンが表示されている文字だけを全てチェックONにします
全ての行を選択状態にする	全ての行を選択状態にします

⑧ 登録イメージ表示

選択された文字の登録イメージを表示します。[Paint] ボタン押下で「ペイント」アプリを起動してイメージを表示します。

●等倍：実寸で表示。矩形領域より大きい場合はスクロール表示します。 ●ズーム：拡大して表示。矩形領域に合わせて伸縮して表示されます

⑨ 編集イメージ表示

選択された文字の編集イメージを表示します。[Paint] ボタン押下で「ペイント」アプリを起動してイメージを表示します。未編集の文字は非表示になります。

●等倍：実寸で表示。矩形領域より大きい場合はスクロール表示します。 ●ズーム：拡大して表示。矩形領域に合わせて伸縮して表示されます

⑩ 編集方法選択

リソースの編集方法を選択します。詳細は「4. 2 編集操作」を参照してください。

[1] フォントリソースを指定	インストールされているフォントを選択して文字イメージを再作成します
[2] 画像ファイルを指定	文字イメージを指定された画像ファイルに置換します
[3] 画像の補間を指定	登録文字イメージを画像補間して編集します
[4] バーコード幅の変更	バーコードフォントのバー幅を補正します
[5] リソースを無効にする	登録文字イメージを無効にして空白文字にします

⑪ 解像度・画像形式指定

編集する解像度を指定します。また、編集画像の形式を選択します。編集画像形式は「32bitカラー (ARGB)」を推奨とします。

⑫ オーバーレイ背景画像指定

PDFへの変換時に背景として埋め込む画像を指定できます。リストファイルはCSV形式で指定します。詳細は「4. 2 編集操作」を参照してください。

⑬ 編集・取消・CSV出力操作

[編集] ボタンで編集を実行します。[取消] ボタンでチェックされている文字の編集を取り消します。[CSV] ボタンで登録文字リストをCSV形式で出力します。詳細は「4. 2 編集操作」を参照してください。

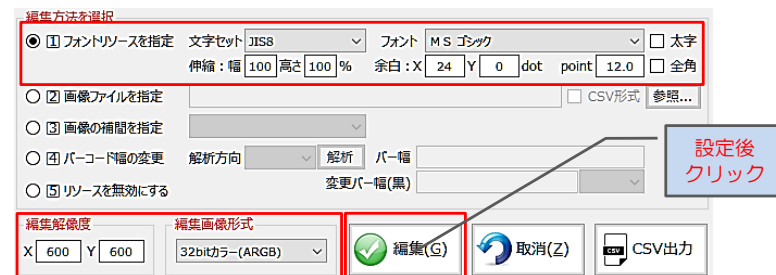
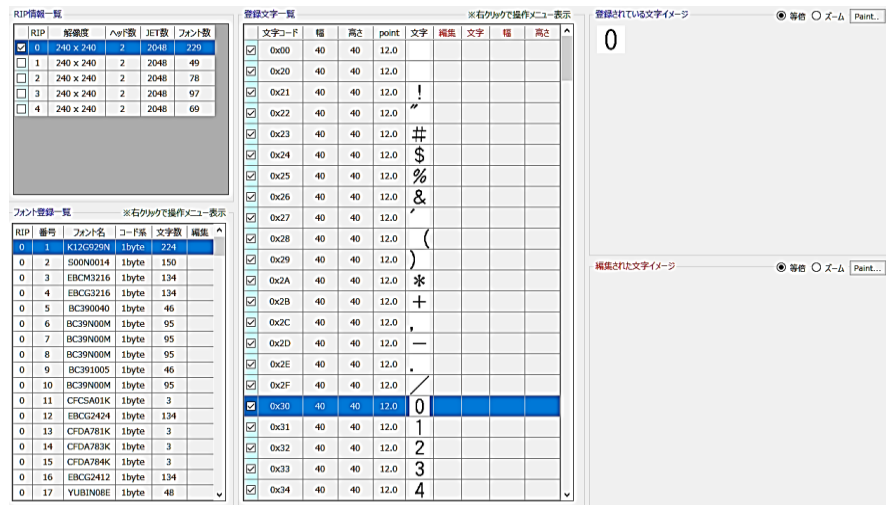
4. 2 編集操作

この機能の編集操作について説明します。

4. 2. 1 編集方法別の操作

(1) フォントリソースを指定

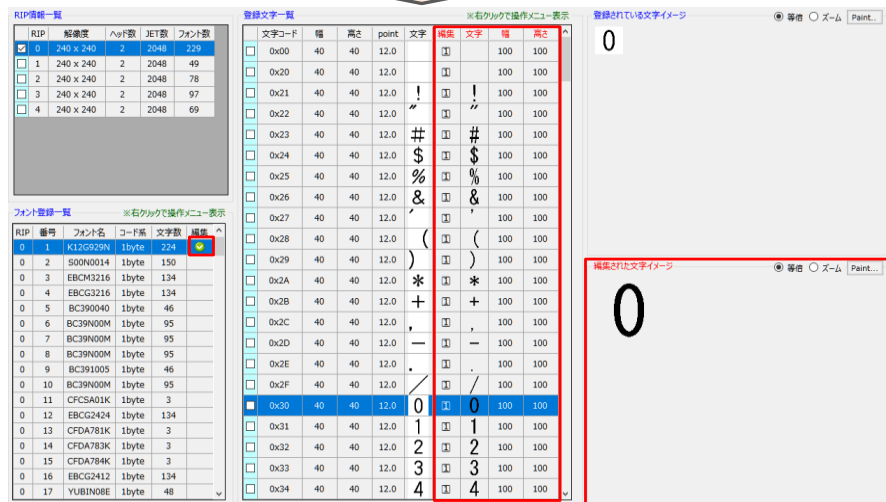
インストールされているフォントを選択して文字イメージを再作成します。
対象RIPおよび対象フォントを選択して編集する登録文字をチェックして [編集] ボタンをクリックします。



文字セット	登録文字の文字コードを確認して文字セットを選択します(*1)
フォント	登録文字の文字イメージを確認して使用するフォントを選択します(*1)
伸縮	文字イメージを伸縮する場合は幅高さを%で指定します
余白	作成された文字イメージの配置を変更する場合にドット値で指定します
point	既存文字のポイントを変更する場合に指定します
太字	編集文字イメージをBoldにする場合に指定します
全角	編集文字イメージを全角文字から参照する場合に指定します

(*1) ホスト系文字セット。ホスト系フォントを使用する場合は別途オプションが必要です

[編集]



編集後には、フォント登録一覧に緑のアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルの [編集] [文字] [幅] [高さ] に編集番号 [1] および編集された文字情報が表示されます。

(2) 画像ファイルを指定

任意の画像ファイルまたは画像ファイル名が記述されたCSVファイルを選択して文字イメージを再作成します。
対象RIPおよび対象フォントを選択して編集する登録文字をチェックして [編集] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the '登録文字一覧' (Registered Characters) table with columns for '文字コード' (Character Code), '幅' (Width), '高さ' (Height), 'point', '文字' (Character), '編集' (Edit), '文字' (Character), '幅' (Width), and '高さ' (Height). The character '9' is selected. The '編集方法を選択' (Select Editing Method) dialog box is open, with the '画像ファイルを指定' (Specify Image File) option selected. The '参照...' (Reference...) button is highlighted. The '編集' (Edit) button is also visible.

This close-up shows the '編集方法を選択' (Select Editing Method) dialog box. The '画像ファイルを指定' (Specify Image File) option is selected. The '参照...' (Reference...) button is highlighted. The '編集' (Edit) button is also visible.

[参照] ボタン 使用する画像ファイルを選択します。選択された順番に参照されます
 CSV形式 CSV形式で画像リストを選択します (以下参照)

※CSV形式では編集順に右記のようなテキスト改行ファイルを作成して選択します

```

C:¥TGI¥Kodak¥JPDS¥00_N_012_00F0.tif
C:¥TGI¥Kodak¥JPDS¥00_N_012_00F1.tif
~~~~~
C:¥TGI¥Kodak¥JPDS¥00_N_012_00F8.tif
C:¥TGI¥Kodak¥JPDS¥00_N_012_00F9.tif
    
```



The screenshot shows the '登録文字一覧' (Registered Characters) table after editing. The character '9' is now highlighted in red, and a green checkmark icon is visible in the '編集' (Edit) column. The '編集' (Edit) button in the dialog box is now disabled.

編集後には、フォント登録一覧に☑のアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルの [編集] [文字] [幅] [高さ] に編集番号 [2] および編集された文字情報が表示されます。

(3) 画像の補間を指定

登録されている文字イメージに対して画像補間方法を指定して画像伸縮を行い編集します。
対象RIPおよび対象フォントを選択して編集する登録文字をチェックして [編集] ボタンをクリックします。

文字コード	幅	高さ	point	文字	編集	文字	幅	高さ
0x1	40	40	12.0	A				
0x2	40	40	12.0	B				
0x3	40	40	12.0	C				
0x4	40	40	12.0	D				
0x5	40	40	12.0	E				
0x6	40	40	12.0	F				
0x7	40	40	12.0	G				
0x8	40	40	12.0	H				
0x9	40	40	12.0	I				
0xA	40	40	12.0	J				
0xB	40	40	12.0	K				
0xC	40	40	12.0	L				
0xD	40	40	12.0	M				
0xE	40	40	12.0	N				
0xF	40	40	12.0	O				
0x10	40	40	12.0	P				
0x11	40	40	12.0	Q				
0x12	40	40	12.0	R				
0x13	40	40	12.0	S				
0x14	40	40	12.0	T				
0x15	40	40	12.0	U				
0x16	40	40	12.0	V				

編集方法を選択

フォントリソースを指定 文字セット: [] フォント: [] 太字
伸縮: 幅 [] 高さ [] % 余白: X [] Y [] dot point [] 全角

画像ファイルを指定 [] CSV形式 参照...

画像の補間を指定 **バイリニア (標準)**

バーコード幅の変更 解析方向 [] 解析 [] バー幅 [] CSV出力

リソースを無効にする 変更バー幅(黒) []

編集解像度: X [600] Y [600] 編集画像形式: 32bitカラー (ARGB) **編集(G)** 取消(Z) CSV出力

バイリニア	ピクセル色の平均値を補完して伸縮させます
バイキュービック	ピクセル色とその周辺色を補完して伸縮させます
バイリニア(高品質)	ピクセル色の平均値を補完して伸縮させます (高品質)
バイキュービック(高品質)	ピクセル色とその周辺色を補完して伸縮させます (高品質)
ニアレストレイバー	ピクセルを解像度倍率で単純に伸縮させます (低品質)

※この編集を使用した画像は補完したピクセルに白黒以外の色が含まれます

[編集]

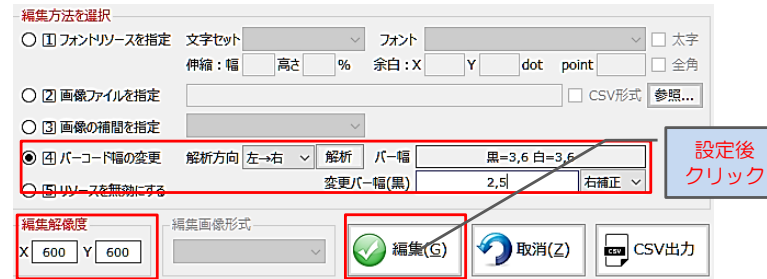
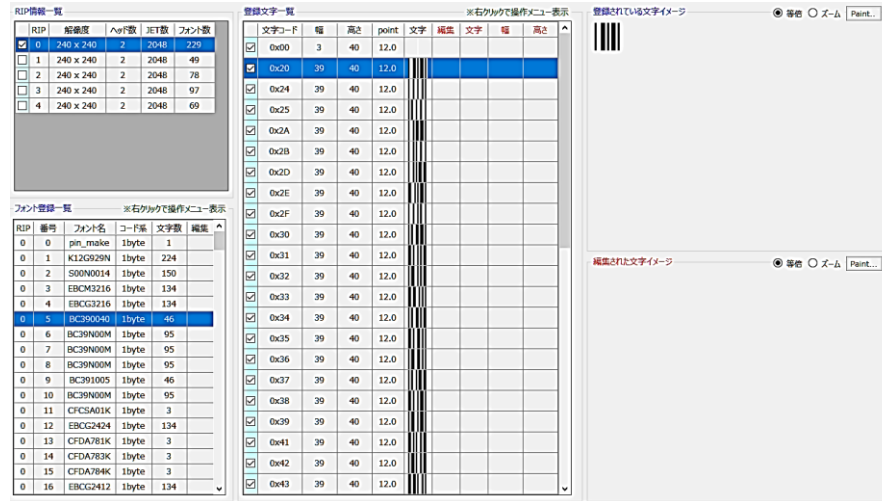
文字コード	幅	高さ	point	文字	編集	文字	幅	高さ
0x1	40	40	12.0	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	100	100
0x2	40	40	12.0	B	<input type="checkbox"/>	B	100	100
0x3	40	40	12.0	C	<input type="checkbox"/>	C	100	100
0x4	40	40	12.0	D	<input type="checkbox"/>	D	100	100
0x5	40	40	12.0	E	<input type="checkbox"/>	E	100	100
0x6	40	40	12.0	F	<input type="checkbox"/>	F	100	100
0x7	40	40	12.0	G	<input type="checkbox"/>	G	100	100
0x8	40	40	12.0	H	<input type="checkbox"/>	H	100	100
0x9	40	40	12.0	I	<input type="checkbox"/>	I	100	100
0xA	40	40	12.0	J	<input type="checkbox"/>	J	100	100
0xB	40	40	12.0	K	<input type="checkbox"/>	K	100	100
0xC	40	40	12.0	L	<input type="checkbox"/>	L	100	100
0xD	40	40	12.0	M	<input type="checkbox"/>	M	100	100
0xE	40	40	12.0	N	<input type="checkbox"/>	N	100	100
0xF	40	40	12.0	O	<input type="checkbox"/>	O	100	100
0x10	40	40	12.0	P	<input type="checkbox"/>	P	100	100
0x11	40	40	12.0	Q	<input type="checkbox"/>	Q	100	100
0x12	40	40	12.0	R	<input type="checkbox"/>	R	100	100
0x13	40	40	12.0	S	<input type="checkbox"/>	S	100	100
0x14	40	40	12.0	T	<input type="checkbox"/>	T	100	100
0x15	40	40	12.0	U	<input type="checkbox"/>	U	100	100
0x16	40	40	12.0	V	<input type="checkbox"/>	V	100	100

編集後には、フォント登録一覧に のアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルの [編集] [文字] [幅] [高さ] に
編集番号 [3] および編集された文字情報が表示されます。

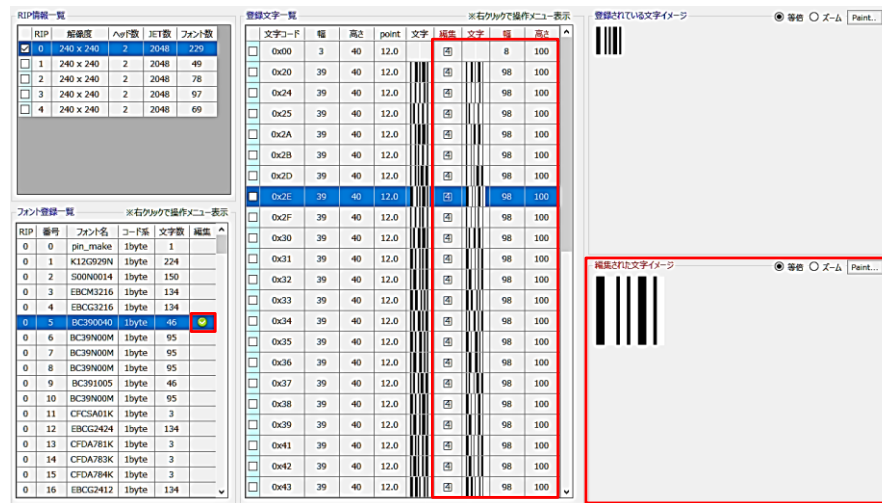
(4) バーコード幅の変更

登録されているバーコードイメージに対してバー幅を補正する画像編集を行います。この編集はバーコードイメージの文字専用の編集方法です。対象RIPおよび対象フォントを選択して編集する登録文字をチェックして [編集] ボタンをクリックします。



解析方向	バーの解析方向を指定します。回転している場合はその回転方向に合わせます 回転なし：左→右、90度：上→下、180度：右→左 270度：下→上
[解析]ボタン	解析方向を選択して[解析]ボタンを押下すると現在のバー幅を右側へ表示します
変更バー幅	黒バーのみの幅を指定します。上側に表示されたバー数で補正ドット値を入力します
右補正	バーの右側ドットを補正します。「左補正」左右を補正する「両補正」も指定できます

※指定した黒バーの増減値で隣接する白バー幅を増減します。補正を行ってもバー全体幅は変更されません。



編集後には、フォント登録一覧にのアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルの [編集] [文字] [幅] [高さ] に編集番号 [4] および編集された文字情報が表示されます。

(5) リソースを無効にする

登録されているフォントリソースを無効にする編集です。この編集が行われた文字はPDF変換時には空白となります。対象RIPおよび対象フォントを選択して編集する登録文字をチェックして [編集] ボタンをクリックします。

編集方法を選択

- フォントリソースを指定
- 画像ファイルを指定
- 画像の補間を指定
- バーコード幅の変更
- リソースを無効にする

編集解除度 X: 600 Y: 600

編集画像形式

編集 (G) 取消 (Z) CSV出力

設定後クリック



編集後には、フォント登録一覧に緑のアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルに編集番号 [5] が表示されます。

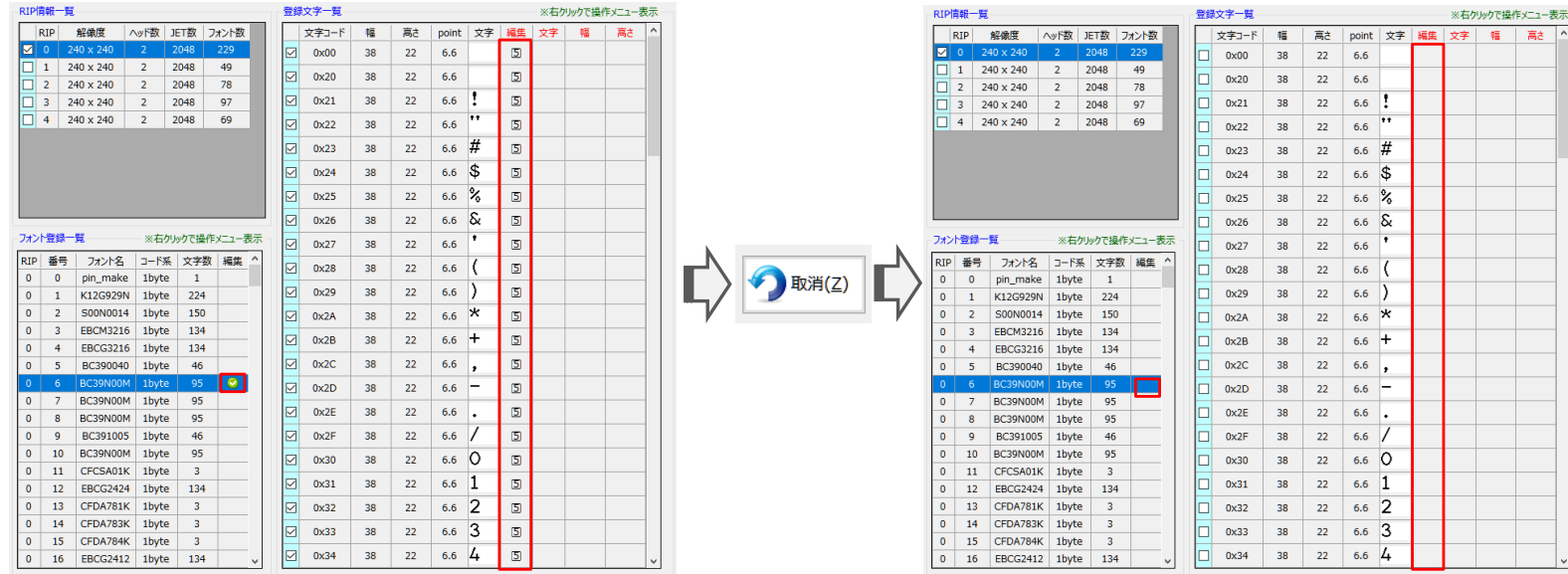
編集後には、フォント登録一覧に緑のアイコンが表示されます。

登録文字一覧の赤字タイトルに編集番号 [5] が表示されます。

4. 2. 2 その他の操作

(1) [取消] ボタン操作

編集をキャンセルする場合に使用します。キャンセルしたい文字をチェックして [取消] ボタンをクリックします。



取消後には、フォント登録一覧の🟢アイコンが表示されなくなります。
登録文字一覧の赤字タイトルの編集番号 [5] が表示されなくなります。
※編集されている文字が残っている場合はアイコンが表示されます。

(2) [CSV出力] ボタン操作

現在選択されているフォントに格納されている全ての文字情報をCSVファイルおよびPNG画像ファイルとして出力します。

CSVファイル名: {RIP番号}_{フォント番号}_{フォント名}.csv 例) 0_1_K12G929N.csv

CSVファイル書式

```
文字コード,幅,高さ,point,文字(画像ファイル名),編集,文字(画像ファイル名),幅,高さ
0x00,40,40,12,0,0_1_K12G929N_0x00_1.png,①,0_1_K12G929N_0x00_2.png,100,100
0x20,40,40,12,0,0_1_K12G929N_0x20_1.png,①,0_1_K12G929N_0x20_2.png,100,100
0x21,40,40,12,0,0_1_K12G929N_0x21_1.png,①,0_1_K12G929N_0x21_2.png,100,100
```

※1行目はヘッダ情報です
※画像ファイルはCSVが格納されたフォルダへ出力されます
※文字コードは先頭に"0x"が付加された16進表記です
※幅・高さの単位はドット数です

(3) オーバーレイ背景画像指定

PDF変換時にオーバーレイ画像として挿入する画像リストCSVを指定します。

CSVファイル書式

```
1-100,C:¥TGI¥Kodak¥IJPDs¥Over lay.pdf?1
201-300,C:¥TGI¥Kodak¥IJPDs¥Over lay.pdf?2
301,C:¥TGI¥Kodak¥IJPDs¥Over lay_301.tif
302,C:¥TGI¥Kodak¥IJPDs¥Over lay_302.tif
```

※ページ番号を範囲指定する場合は"-"で区切ります
※画像ファイルがPDFの場合はファイル名の後尾に"?"を付加してページ番号を指定できます
※指定するページ番号はIJのドキュメント番号ではなく変換されるPDのページ番号です
※定義されていないページにはオーバーレイ画像は挿入されません

5. コマンドライン起動方法

「JPDS To PDFコンバータ」は以下の方法でコマンドラインより起動することができます。

- (1) コマンドファイル格納フォルダ
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0
- (2) コマンドファイル名
TgilJPDSFileDecoder.exe
- (3) コマンド引数
第1引数=変換動作設定ファイル (j2pファイル名)
第2引数=即時実行指定 (“-run”)
- (4) プロセス終了値
正常終了=0
異常終了=1以上 (単一ファイル選択の場合は1、フォルダ選択の場合はエラーとなったファイル数)
- (5) コマンド起動例
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>TgilJPDSFileDecoder.exe sample.j2p -run

<件数リストファイル内容>

- 出力ファイル名
ファイル指定の場合：変換されたPDFが格納されるフォルダに“入力ファイル名”.csv の名前で作成される
フォルダ指定の場合：変換されたPDFが格納されるフォルダに末尾の“フォルダ名”.csv の名前で作成される
- 文字コード=Shift-JIS
- 改行コード=CR/LF
- 項目の区切り文字=TAB(0x09)
- 項目=1列目:出力日時 2列目:出力フォルダ 3列目:PDFファイル名 4列目:変換ページ数 5列目:正常/異常

出力例)

2022/11/01 20:44:55	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST01. pdf	182	正常
2022/11/01 20:45:02	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST02. pdf	64	正常
2022/11/01 20:45:12	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST03. pdf	45	正常
2022/11/01 20:45:19	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST04. pdf	0	異常
2022/11/01 20:45:26	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST05. pdf	897	正常
2022/11/01 20:45:32	C:¥TGI¥1JPDS¥PDF	TEST06. pdf	15	異常

- (6) 留意事項
j2pファイルの動作設定が「ホットフォルダ」に設定されている場合はコマンドを起動した後にホットフォルダの監視動作に入ります。
この場合はコマンドが自動終了することはありません。

6. JPDS仕様の対応範囲

JPDS仕様における制御コマンドの対応範囲は以下となります。

制御コマンド	コマンド名称	対応 (バージョン)
LFF	固定ファイルのロード	対応
EFF	固定ファイル終了	対応
SDC	文書及びキュー開始	対応
SOD	文書開始	対応
SOP	ページ開始	対応
SPC	スペース	対応
EOJ	ジョブ終了	対応
SFI	フォント及びイメージ設定	対応
IML	イメージライン	対応
SFF	固定ファイル設定	対応
RFF	固定ファイルのリセット	対応
GFF	固定ファイルへの飛越し	対応
FDR	フォント定義レコード	対応
CDR	文字定義レコード	対応
SPO	位置設定	対応
RIP	RIP選定	対応
JC2	ジョブ制御レコード2	対応
FAR	フォント割り当てレコード表	対応
PHR	プリントヘッド要求事項レコ	対応
BOX	方形領域の書き込み	対応
SLF	論理関数の設定	対応
IBM	イメージビットマップ	対応
SFD	スーパーフォント定義レコー	対応
SIL	2バイトイメージライン	対応
SFT	セットフォント	対応
WFC	キュー待ち	対応
NOP	ノーオペレーション	対応
MSG	メッセージ	対応
SPX	位置を設定	対応
FDM	メトリックとスーパーフォン	対応
SFM	スーパーフォントメトリック	対応
CDM	メトリックと文字定義	対応
CCD	圧縮されたキャラクタ定義	対応

制御コマンド	コマンド名称	対応 (バージョン)
SFS	フォントと間隔を設定	対応
PLR	ページの長さの要件	対応
SPL	ページの長さを設定	対応
VCC	文字のチェックサム	対応
CBM	圧縮されたビットマップ	対応
MPL	マルチパートラインモード	対応(3.0.0~)
SRP	相対位置の設定	対応(3.0.0~)
JCR	ジョブ制御レコード	非対応
STP	停止	非対応
RCR	範囲チェックレコード	非対応
UIL	フォーマットされていない画像	非対応
SOR	原点の設定	非対応
CSS	カーソル保存	非対応
CSR	カーソルリストア	非対応
SRM	解像度乗算器を設定	非対応
RSRC	リモートリソース	非対応